



第40回 観月祭と邦楽の夕べ



発行所
〒010-0946
秋田市川尻総社町14-6
総社神社
<http://sosha-j.jp>

御代替わりに思う

総社神社 宮司 川尻 孝紀



今上陛下の
ご譲位表明に
より明年四月
で平成の御代は終わりを告げるこ
ととなります。

ご承知のように、日本では元号が
替わります。普段生活の中で私たち
は、あたりまえのように明治・大正・
昭和の時代と呼んでその時代を共
に過ごし振り返ったりしています。
もちろん西暦も併用して使用して
います。

しかし、この元号の歴史や文化に
ついて私たちはどの程度知ってい
るでしょうか。

元号は今から約千四百年前の飛
鳥時代、当時の先進国であった唐
(現代の中国)から取り入れられま
した。最初の元号は「大化」(西暦
六四五)です。平成まで二四七の元
号を数えます。昔は天皇陛下の御代
替わりや国の大きな吉事凶事の時
などにも改元が行われました。

明治時代からは時の天皇陛下が
即位されると一代に一つの元号が
つけられるようになりました。古来
より日本は君主であられる天皇陛
下と国民との強い紐帯によって成
り立つてきました。一代の天皇さま
と時代を共有して生きてきた深い
感慨が身近に感じられるのが元号
です。

また、元号には天皇陛下や国民の
理想が込められています。たとえ
ば、今の「平成」の字は中国の歴史書
である「史記」や「書経」などからの
引用と言われています。『内(平)外(成)
(内平らかに外成る)或いは『地(平)天
(成)』(地平らかに天成る)との意味が
あるそうです。

日本は世界の諸国と親善交流を
深め平和で共存共栄することを常
に念願してきました。来る新しい御
代の元号も次世代を担う人々の理
想や象徴となりより良い国家とし
て発展するよう祈念すると共に皇
位継承にかかる一連の儀式も古来
同様歴史・伝統文化に添う意義深い
ものとなるよう祈念する次第です。

祭礼行事曆

平成三十年元日～九月

一月

元旦 歳旦祭
八日 (成人の日)どんと祭
餅つき行事奉仕

十四日 青年会・敬神婦人会
ブラウブリッツ秋田
必勝祈願祭

十九日 月次祭
二十日 青年会新年会
二十八日 川尻本町春祈禱祭
(川尻本町集会所)

二月

三日 節分祭豆まき神事
十日 交通安全協会川尻支部
安全祈願祭

十一日 建国記念の日
奉祝秋田県大会
十八日 肝煎町春祈禱祭
(肝煎町会館)

十九日 祈年祭併せ月次祭

三月

十九日 月次祭
三十日 交通安全協会旭南支部
安全祈願祭
(旭南コミセン)

四月

七日 境内清掃打合せ会議
九日 崇敬会理事会
十四日 第一回境内清掃
十五日 ボーイスカウト秋田
第31団育成会総会・
上進式

十九日 月次祭・崇敬会総会
二十九日 昭和祭・第二十七回
秋田県出身特攻隊
慰霊祭

五月

一日 神社総代会総会
十二日 第二回境内清掃
十五日 敬神婦人会清掃奉仕
敬神婦人会総会

十八日 春季例祭宵宮祭
十九日 春季例祭当日祭
二十四日～二十五日 山王中二年生職場体験

六月

二日 氏青東北大会
(秋田市開催)
三日 秋田県鳶土木連合会
安全祈願祭

九日 第三回境内清掃
十六日 青年会例会
十七日 鹿嶋祭り(西表町・昆沙
門町・肝煎町)

十九日 月次祭

二十六日 川尻小学校ふるさと
集會にて雅楽演奏
三十日 第二十三回秋田刑務所
安全祈願祭
三十日 夏越大祓式

七月

十四日 第四回境内清掃
十九日 月次祭
二十八日 青年会例会・暑気払い

八月

三日 第17回日本スカウト
ジャンポリー派遣隊
安全祈願祭(第31団)
第五回境内清掃

十一日 早駒神社例祭
十七日 川尻の夏祭り
十八日 月次祭

九月

十五日 青年会例会
十九日 月次祭
二十四日 観月祭と邦楽の夕べ

十月

十八日 秋季例祭宵宮祭
十九日 秋季例祭当日祭

十一月

十五日 七五三参り
十九日 月次祭
下旬 干支大絵馬揮毫

十二月

第一日曜 干支大絵馬奉納式
十九日 月次祭
神社大忘年会

下旬 煤払い
二十八日 餅つき行事
青年会・敬神婦人会
奉仕

大晦日 師走大祓式

十月以降の祭礼行事予定



総社神社ご祭礼

感動をありがとう！ 金足農業高校



総社神社総代
芳賀 龍平

平成三十年の夏は感動と感激で日本中が沸き熱狂した。

第一〇〇回全国高校野球選手権記念大会で金足農高が準優勝に輝いた。選手たちの活躍に惜しみない拍手を送り、心から賞賛する。

金足農高チーム全員が笑顔で全力プレーする姿、強豪高を次々と撃破する快進撃と九回裏からの逆転サヨナラ勝ち、校歌をおもいっきり全力で歌う姿、踏みつぶされても屈しないで芽を出す強靱な雑草のようなパフォーマンスで勝ち進んで行く姿に興奮し感動した。

快進撃は初戦の強豪校鹿児島実高に五対一で快勝して始まった。大垣日大高との二回戦、三対三の同点

膠着状況の八回裏、大友選手の打球が左翼ポール際に吸い込まれると大観衆が一気に湧いた。見事六対三で勝利を収めた。

優勝候補の一角の横浜高との三回戦。横浜高に2対4で勝ち越された八回裏、このまま押し切られるかと思われる流れの中、高橋選手の起死回生の一振りが場内の雰囲気を変えた。フルスイングで捉えた打球はセンターを超える逆転三本塁打となり、5対4で強豪横浜高を倒す大金星を手繰り寄せた。「すごい・奇跡・神がかり」と興奮した。

九回表、吉田投手を後押しする「吉田コール」が湧き上がり、それに応えるように三者連続三振で締めくくった。強豪高に立ち向かう姿勢を後押しする大観衆の声援、応援団の熱気は最高潮に、手をたたき、勝利の喜びを分かち合った。固唾をのんでテレビ中継を見守る私は思わず立ち上がり「バンザイ」しながら勝利に酔いしれた。

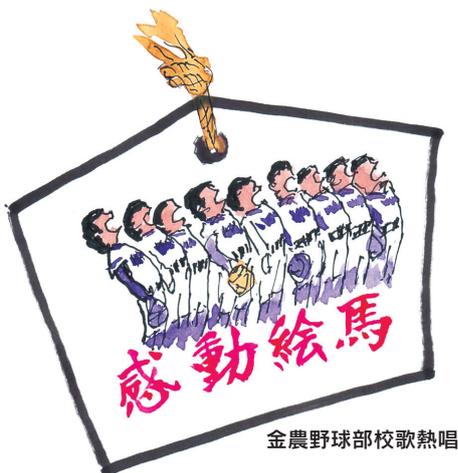
準々決勝の近江高戦は1対2、一点リードを許す九回の裏の攻撃、無死満塁で打席に立つ斎藤選手は後押ししてくれる大観衆の「大声援」を味方に『この回で決めてやろう』

と可能性を信じ三塁寄りにスクイズをした。『決めた・決めた』三走の高橋選手がホームベースを目指してモウダッシュで駆け込み同点。二走の菊池選手は思いきりのいい好走塁で一気に本塁を陥れ、間一髪でサヨナラ勝ちをもぎ取った。菊池選手は「三塁手が捕れば、背後を走る自分が見えない。そのままホームに突っ込もうと考えていた。練習でいつもやっているプレーです」と冷静に振り返った。二ランスクイズをやったのけた菊池(彪)選手は川尻小学校・山王中学校卒業生であり、後輩たちに熱戦の報告に来ていた。

県勢として一〇三年ぶり、第一〇〇回の記念大会でたどり着いた決勝進出は何と不思議な歴史の巡り合わせだろうか。悲願の初優勝には

届かなかったが、選手たちは持てる力を出し切った。公立の高校が甲子園常連の私立高校を際どい試合で次々と撃破する姿に爽快感でいっぱいになった。

最後まで諦めずに勝利を狙う姿勢が大観衆の共感と称賛をよび、全国に金足農高旋風を巻き起こした。連日のように数多くのテレビ・新聞が好意的に取り上げ大きく報じてくれて嬉しかった。金足農業高校インが築いた感動の奇跡は未永く記憶に残り、語り継がれて行くことでしょう。



金農野球部校歌熱唱

現代スポーツと健康



総社神社総代
黒澤 紘

今回「現代スポーツと健康」をテーマに原稿を依頼されました。

私なりに考えた事を記載したいと思えます。まずこれからは高齢者社会になり、スポーツをしながら健康を維持して行くことが大切であると思えます。また、健康増進と生きがいづくりの為にスポーツに親しむことが出来るように環境作りも大事であると思えます。

何年前かに市のスポーツ振興課がスポーツについてデータを取ったことがあります。その結果運動を行うことが好きな人7割、スポーツを観戦することが好きな人8割という結果が出ています。

スポーツを行った理由としては健康や体力の保持増進を目的とし

ている人が最も多く、スポーツを生活に取り入れて健康を維持しようとする人が大変多くなっているようです。そして行ったスポーツの種類をみると、散歩や軽い体操が上位を占めており、場所や道具、季節を問わず行えるスポーツが多く実施されています。

これらの状況を考えれば、健康を実感できるスポーツを基本目標に市民のみなさんが生涯スポーツを主体的に行う活動のほか、スポーツを見て楽しむ、或いはスポーツと健康を支援する活動に関わって行くことも大切であると思われれます。

今私が地域で関わっている健康とスポーツでは、平成二十二年から行っている体力づくり教室で、秋田市保健所から依頼された事業があります。対象者は65歳以上の男女で会員は現在40名。月2回のペースで行っています。準備体操から始まり、柔軟体操、10メートル障害物歩行、反復横とび、開眼片足立ち、セラ

バンドを使った簡単な筋力トレーニングなどを行います。また、現代スポーツのユニカール、フロアカーリングなどのゲームを楽しみながら行っており、秋田市のユニカール大会ですばらしい成績も上げています。

この教室の一番の目的は、健康第一ですが、高齢者のうつ病、ぼけ防止や認知症予防にも効果があります。そしてみなさんと話し、多くの友だちを作り、楽しく継続して行くことが大切であると思えます。



ユニカール

纏(まとい)のお守り



総社神社青年会
渡部 顕

この度、宮司様のお計らいにより「総社神社限定ミニチュア纏お守り」を制作する運びとなりました。

私は三年前、消防を早期退職し、現在は、縁起物の纏制作をなりわいとしています。この度の「お守り」制作のお話をいただいた時は、嬉しさと同時に身が引き締まる思いでした。

住民の永遠の繁栄を願い、心を込めてお作り致します。デビューは来年元日となりますので、ご興味のある方は社務所にてお求め下さい。さて、纏について少々記したいと思います。

江戸時代、江戸町人が住む地域の火災は「いろは」の組に分かれた町火消しによって消火が行われ、纏は各組の旗印でした。

組のうちで体力、威勢共に優れた者が「纏持ち」に任命され、現場では纏持ちが纏を振り立てて消火活動の目印すると共に仲間たちの士気を鼓舞しました。纏持ちが上がった家が焼ければ、纏も纏持ちと一緒に燃えてしまうため「纏を焼くな」とばかり各自が必死に働いたのです。

大江戸三男とは、与力・相撲取り、そして火消しです。町火消しの粋な姿と纏は、江戸の町民に大変頼もしく見えたことでしょう。

さらに、纏に関しては面白いエピソードがあります。纏の白いヒラヒラした部分を馬簾(ばれん)といいます。が、纏を振り回すと、この馬簾が「飛火」を防ぐことから、江戸の町民は幼児の顔や身体によく出来る皮膚病の「トビヒ」を「飛火」にひっかけました。すると、馬簾があればトビヒが治るといふことで、鳶頭の家からは頻りに馬簾が盗まれたといわれています。

いつの時代も安寧を願う想いは

不変です。

総社神社限定ミニチュア纏お守り。来年の元日、どうかお手に取ってご覧下さいませ。

※ホームページ「まとい工房南天」で検索して下さい。



纏のお守り

年に一度お月見に集う会 第四十回 観月祭と邦楽の夕べ

総社神社宮司 川尻 孝紀

毎年太陰暦八月十五日の十五夜に年に一度お月見に集う会として始めた「観月祭と邦楽の夕べ」は四十年を数える事となりました。当初は

雅楽の上達のために有志が集って温習会として始まりました。会場も神社であったり千秋公園であったりで定まっていませんでした。私が総社神社に定住するようになった平成から総社神社境内で舞台を設置して行うようになりました。

やがて、様々の邦楽演奏者とも縁が広がり各演奏団体からも出演していただけるようになりました。県内神職で雅楽を同好する有志、琵琶の先生、能楽・謡曲の有志、尺八・箏の演奏者などすばらしい出会いがありました。これは正にご神縁に他ならないと感謝しています。

お月見行事は全国各地で盛んに行われていますが、元々月の満ち欠けは農作と密接な関係がありました。欠けのない望月は豊年万作の豊穰や願い事の成就を象徴するところから特に中秋の名月には稲穂に見立てたススキに秋の草花を添え、芋・豆や栗などの収穫物を月の神(月読尊)に捧げ収穫の恵みに感謝

し家族そろってお祝いしてきた行事です。

これからもこのすばらしい行事の意義を後世に伝えながら、拙い演奏ではありますが、精進してがんばって行きたいと思えます。地域の皆様も共に優雅な一夜にご一緒に参加鑑賞いただけましたら幸いです。



神前神楽 悠久の舞



神前神楽 浦安の舞

第17回日本ジャンボリー に参加して



秋田第三十一団
佐藤 文俊



世界の仲間たち

八月三日夕方、総社神社社殿にて安全祈願祭を行った後、一路能登半島の先端で開催された第十七回日本スカウトジャンボリーに秋田県派遣隊副長として、六泊七日の野営生活に行ってきました。

このスカウトジャンボリーは四年に一度のボーイスカウトの全国大会で、全国から約一万三千人と、

海外からの参加スカウトを交えてのとても大きな大会です。秋田県からは、大会スタッフ、派遣団、派遣隊総勢四十五名が参加し、当第三十一団からは、指導者五名、スカウト九名（小学六年生から高校二年生まで）が参加しました。

大会期間中は天候にも恵まれ、また秋田県のテントサイトから開会式や閉会式が行われるアリーナまでも近く、とても条件のいい場所でも長期間過ごすことが出来ました。

開会式の翌日には、三十一団育成会会長の川尻宮司と田子真団員が、とても暑い中大きなスイカ三個とお菓子などたくさんさんの差し入れの品々を持参の上、会場を訪問していただき、スイカは他県スカウトとの交流会でおいしくいただきました。長期野営生活を通じ、スカウトが仲間を信じ協力する大切さと、新たな感動を体感することができたことでしょう。

この大会に向けて、一昨年から参加者の負担軽減を目的に、総社神社

春祭りの際に、焼き鳥や焼きそばを販売し、川尻周辺の皆様から購入していただき、参加費用の一部を大会参加指導者や保護者に還元することができましたことを感謝いたします。最後に、金足農業高校が甲子園での初戦を勝利したことを現地であり「すごいなあ」と思っていました。が、帰ってから勝ち進む試合を楽しみに見て、とうとう準優勝を勝ち取ることができました。日々努力の賜物です。スカウト活動にも相通じるものがあるような気がしました。



スカウト交流

年中祭礼・行事

- 一月 歳旦祭 どんと祭
- 二月 節分祭・厄祓い
- 五月十八日 春季例祭宵宮祭
- 五月十九日 春季例祭当日祭
- 六月三十日 夏越大祓式
- 九月二十四日 十五夜 観月祭と 邦楽の夕べ
- 十月十八日 秋季例祭宵宮祭
- 十月十九日 秋季例祭当日祭
- 十一月十五日 七五三参り
- 十二月上旬 大絵馬奉納式
- 十二月下旬 煤払い式 餅搗き
- 十二月大晦日 師走大祓式
- 毎月十九日 月次祭

平成三十年度
総社の杜 俳句・川柳大会入賞作

☆優 秀

- 虫の音ともみじが創る夜の秋 (山王中二年 米澤 美乃)
- 大木が歴史を語る総社の杜 (山王中二年 大高さつき)
- 秋祭り総社の木々も踊りだす (山王中二年 戸田 大尋)
- 神の木々天まで届けと虫の声 (山王中一年 栗岡 怜平)
- 神様と木々が見守る夏祭り (山王中一年 平田 夏織)
- 猛暑日も総社の杜は別世界 (川尻小六年 鎗目 麻央)
- 杜の秋風と落ち葉がダンスする (川尻小六年 細谷 小春)
- 初詣家族の夢をねがいます (川尻小六年 伊藤 心月)
- 総社の木四季折々の服を着る (川尻小五年 藤原 沙妃)
- コオロギが総社の杜でコンサート (川尻小五年 阿部 柊舞)
- 総社にはいつも自然の声がする (旭南小六年 壹岐真名人)
- 歴史あり思い出ありの木は太し (旭南小六年 安藤 愛知)
- 夕方にはじまる虫の演奏会 (旭南小六年 澤木 煌明)
- 秋風で神社のこま犬寒そうだ (旭南小六年 佐々木美桜)
- カラフルな紅葉落ちばおどってる (旭南小五年 中野 袖椅)

以上十五句

☆佳 作

- 秋風が総社の森を抜けていく (山王中二年 鈴木 悠真)
- 総社の木爽やかな風透き通る (山王中二年 佐藤 真衣)
- 蝉時雨ゆれる木々とのハーモニ― (山王中二年 堀井 日向)
- 秋の風さわさわ木々を踊らせる (山王中一年 福岡 和奏)
- 母のよう遊ぶ子見守る総社の木 (山王中一年 名古屋七虹)
- あつい日も総社はぼくらのオアシスだ (川尻小六年 畠山 恵大)
- 虫たちが夜の総社でアンサンブル (川尻小六年 八柳 明結)
- 総社の木れきしをつなぎ今がある (川尻小五年 大類 翔太)
- 総社の木ざわざわざわとしやべりだす (川尻小五年 関 仁子)
- アブラゼミ総社の杜で大合唱 (川尻小五年 大坂 優月)
- 木々たちが紅色の葉にそまる (旭南小六年 伊藤 吏穂)
- 木々たちが静かにおどる夏の夜 (旭南小六年 鈴木 愛優)
- 秋風でひんやり冷たい遊具たち (旭南小六年 赤根谷月美)
- 田のあぜの揺れる提灯彼岸花 (旭南小五年 標 あかり)
- コスモスが風にふかれてぼん踊り (旭南小五年 飛田 ゆき)

以上十五句

氷原帯秋田俳句会 菅原孤秋 選

全応募作品五百十三点から優秀作十五句・佳作十五句を本号文芸欄に掲載致しました。今年も、充実した大会となりました。児童・生徒の豊かで瑞々しい感性が光る素晴らしい作品がそろいました。地域の多くの皆様にご鑑賞いただけましたら幸いに存じます。

神道の知識
いろいろ

天皇陛下の

ご譲位による

御代替わりが明

年五月行われ

ます。前号では天孫降臨にあたり

天照大御神が瓊々杵命に授けられ

た三つの神勅について解説致しま

した。

今回は御代替わりに行われる

「御大礼の儀式」についてお話し

す。

「御大礼」は天皇の即位に関わる

一連の儀式の総称です。即位(踐祚)

した新帝は、即位礼から大嘗祭・

大饗・親調など多くの儀式を行いま

す。

即位礼は、新帝が三種の神器(鏡・

剣・勾玉)を皇位継承の徴として

受け継がれ、公式に国の内外へ即

位を宣言して天皇の御座である

「高御座」へ登られる威風堂々の儀

式です。

次に大嘗祭は一世に一度行われ

る神嘗祭で、占定された悠紀・主基

に供え、国民と共に挙行される最大の重儀です。君主制の国では、それぞれの歴史や文化による即位の儀式が行われてきました。日本では天皇と国民の強い信頼と敬愛に基づいて秋祭り由来する祭祀として大嘗祭が行われます。

大嘗祭が済むと、大饗といつて、

お供え(神饌)の「おさがり」を国民

の代表へ分けられ国民と共に喜び

を分かちます。お祭りの後に行われ

る「直会」にあたります。また、この

時には古来の芸能・舞を披露して寿

ぎます。

最後に、つつがなく即位の儀式を

終えられた天皇陛下は、天照大御神

をお祀りする伊勢の神宮や初代神

武天皇、近縁の天皇がお鎮まりにな

られる御陵(みささぎ)に自ら参拝

されます。ご祖先の神や歴代天皇方

へ即位の報告をなさいます。この儀

を親調といいます。

冒頭申し上げた三つの神勅を今

一度要約すると

として栄え続けること
★八咫鏡を天照大御神に接する事と同様に祀ること
★人々の食の糧となる神聖な田の稲穂を授けること
となりませう。

天照大御神から続く子孫が皇位

につかれ、伊勢の神宮と宮中の御殿

で神鏡をおまつりし、稲が食の基盤

であるように、神勅の精神が受け継

がれています。我が国は神代からの

約束事や歴史を現代に至るまで伝

えている国です。その文化の中心に

今もいらつしやる天皇陛下は、まさ

に日本という国の「象徴」たる所以

なのです。長く続け来られる日本の

歴史・文化を御代替わりにあたって

見直したいものです。



お知らせ

本号のイラストは、水墨画家「飯塚

洋三氏にご揮毫いただきました。

あとがき

今年の夏は、猛暑に台風や豪雨など自然災害の多い夏でした。

しかし、秋田を最も熱くしたのは金農旋風であることにほかならないと思います。

芳賀氏の寄稿や魁紙上にもありましたが、金農は我が秋田県民のみならず全国民に感謝と感激、感動の三つの感を与えてくれました。

正に金農はこの夏の三感王と言つてもよいでしょう。この教訓を糧に何事にも粘り強く頑張る子供たちを育てていきたいものです。

社報「香雲」も第5号を数えるに至りました。皆様のお蔭で中身の濃い機関誌であると称賛の声も聞かれ、うれしく思います。

今号にも小中学生の俳句・川柳を募集しましたら、合計五百十三句の応募がありました。例年に比べ審査の先生を悩ませる力作が多かったようで何よりです。

あと半年で今上天皇のご譲位により、平成時代から次の御代となります。この機会に国民こそつて歴史を共有し、国家・国民が健全で平和な未来になるよう願っています。

(編集委員長 上村 敦記)